

II 特別連載 II

科学技術
振興機構 『さくらサイエンスプログラム』友情と感激

第326回

広島大学の活動報告



渡邊 園子
(広島大学
先進理工系科学研究科
准教授)

米印ネパールの3大学と

7日間にわたる国際合同研修

広島大学博士課程教育リーダーディングプログラム「たおやかで平和な共生社会創生プログラム」は、さくらサイエンスプログラムの支援を受けて、2022年8月22日から28日の7日間にわたって「中山間地域における環境保全型農業と地域の持続可能性」をテーマとする国際共同研修を開催した。研修には、広島大学とテキサス大学オースティン校(米国)、ビルバ技術科学大学ピラスニ校(インド)、トリバン大学(ネパール)の4カ国12名の学生と各大学の教員が参加した。

研修1日目はオリエンテーションを開催し研修の到達目標等を確認。2日目には、松島玉奈氏(東広島市産業部)の東広島市の農業振興に関する講演、瀧川雅子氏と加藤隆明氏(呉市観光振興課)の瀬戸内の観光振興に関する講演、秀田智彦氏(環境省中国四国地方環境事務所)の瀬戸内海島しょ部の自然資源の保全と共生に関する講義を受け、日本の農業政策や地域振興、環境保全に関する政策や取り組みを学んだ。

研修3日目からの現地訪問では、東広島市志和町の有機農業に取り組む2つの農園を視察し、学生らは、地域の自然環境を利用した有機農業の肥料・飼料・原料調達について、地産地消や有機野菜の生産技術、地域の自然環境、生物多様性の保全の重要性に至るまで日本の有機農業と直面している課題について幅広く学んだ。学生からは、自国の農業との違いや土壌づくり、気候変動の影響などを踏まえ、様々な観点から意欲的に質問があった。留学生からは、各国の有機栽培の取り組みや環境保全政策の紹介などもあり、農園の方と各国の文化や社会制度、気候の違いによる農業技術について活発な意見交換があった。

研修4日目からは、瀬戸内海島しょ部に位置する下蒲刈島(呉市)の訪問と大崎下島

プログラムスケジュール	
1日目	オリエンテーション
2日目	講義受講 (農業振興、観光振興、環境保全)
3日目	有機農園を視察
4日目	果樹園オンライン訪問 講義受講(自然資源)
5日目	オンライン講義受講(有機農園) 瀬戸内地域住民とのオンライン意見交換
6日目	平和学習(平和記念資料館)
7日目	成果発表、閉講式

(呉市)の住民との意見交換が予定されていたが、研修参加者に新型コロナウイルスの感染者および濃厚接触者が発生したことから、現地訪問を中止した。しかしながら、現地住民の協力を得て、オンラインでの瀬戸内海の果樹農園の訪問、地域住民との交流と意見交換が実現し、学生は瀬戸内の自然環境や気候を利用した自然調和型の農業、小規模農家での少量多品目栽培の取り組みなどを学ぶことができた。直接の訪問は叶わなかったものの、地域住民のこうしたあたたかな支援は、留学生にとり、とても貴重な経験となった。その後の地域住民との意見交換では、地域おこし協力隊や海外から島への移住者も交えて、人口減少と少子高齢化などに端を発する地域経済の縮小などが地域住民の生活や生業に与えている影響や、地域の魅力を発信する様々な人々の努力や工夫を知ることができた。

研修6日目は、広島市を訪問。広島平和記念資料館や平和記念公園、世界遺産の原爆ドームや宮島を訪問した。学生らにとって、世界で最初の原子爆弾投下から復興を遂げた広島島の復興を間近に感じ、平和について考える機会となった。

学生らは、こうした学習に加えて、国や専門分野を超えて多国籍の学生でチームを組み持続可能な地域づくりに必要な施策や技術について研修で学んだことを基盤に、地域の持続可能性につながる地域計画や政策提言をまとめるグループワークに取り組んだ。

最終日の成果発表では、新型コロナウィルスの拡大や紛争による食糧、エネルギー問題



有機農園訪問



講義の様子

など、不安定な世界情勢において、地域の人的、社会的な資源、地域特有の自然を活用する有機農業を中心とした新しい農業への支援の必要性を共通認識として、「米以外の農産物の成長を支える新しい生産・流通システムの整備」「新規農業参入者を支援する農業のビックデータを利用した精密農業を実現するモバイルアプリの導入」「農業実技科目の導入による初等中等教育での環境保全型農業に関する公衆理解の促進」など、さまざまな提案があった。

研修に参加した学生からは、日本の有機農業に取り組む農家を直接訪問できたこと、有機農法だけでなく観光や生物多様性と言った多様な側面から地域の持続性を考える機会となったこと、異なる分野や国籍の人たちとの協調は素晴らしい経験であったことなど、今



成果発表会後の記念撮影



農園訪問オンライン中継

回の研修を通して、私たちが考えていた以上に有意義な研修であったとの感想があった。また、折に触れて日本の文化を楽しみ、広島への取り組みにも感銘を受け、参加者全員が日本に再び来ることを希望していた。

今回の研修は、新型コロナウィルスの世界的流行を受けて、約3年ぶりに開始した研修である。途中、新型コロナウイルスの感染者が発生したものの、地域住民、参加者、スタッフ、科学技術振興機構(JST)の担当者の理解と協力を得て、感染拡大を防ぎながら予定されたプログラムを実施し最終日を迎えることができた。この場を借りて、感謝申し上げます。今後も本研修での成果をもとに共同研究を実施する計画もある。広島大学は、今後も国際学術交流と地域活性化の更なる発展と好循環の創造に取り組む計画である。